

キラットさん



大館工業高校 2年
ゆう や
長田 裕也 さん



今回の登場は、昨年の四月にできた、土木建築科・建築コースの一期生で、現在二年の長田君です。彼は「秋田の気候、風土に根差した快適な住環境の実現のためのアイデア」を求め、先月行われた「秋田の住宅コンクール」の一般の部で見事に優秀賞に輝きました。彼の作品は「土間があり、冬でも土の感じを味わえる家」。現役的设计士や大学生など八十八人に交じって、最優秀賞に次ぐ優秀賞、高校生の中では最高位です。

土木建築科では、一年目は一般教養だけで、専門分野は全く学びません。つまり、二年生になった今年の四月から建築について学び始めたばかりというから驚きです。実際今でも「設計図を書くことがあ

るのですが、ただ真似をして書いている程度」とのこと。こんな彼がこのような賞に輝いたのは、小さいころから建築に対する興味や疑問を素直に表すことができるのと同時に、二井田から自転車通学している間も「周辺の住宅を見て日々研究している」からではないかと、話をしていて感じました。彼が設計士を目指したのは「変わった家を見ると、どういう風に建てたのか興味があった」ということに加え、「建築士をしている叔父さんを訪ねたときに事務所の仕事に興味をもった」ということからのようです。

将来は進学をし、さらに専門分野を学び、設計士を目指すそうです。そして「日本にまだ見たことのないような家や日本の建物と外国の建物を合体したような家を作ってみたい」と夢がいつばいいます。担当の五十嵐先生は「コンクールには自分で応募したんです。彼は私の簡単なアドバイスにすぐに反応して今回の作品を作り上げました」と彼の才能を認めています。「この建築コースを作っているのは一期生の彼らですから学校としても期待しています。市内で活躍するいい建築家になってもらいたい」とも。

彼をはじめとして、大館工業高校の建築科コースのみんなが、大館の建築界をリードしていく日もそう遠くないように感じました。

私の本棚

中央図書館新着図書

『わたしの家はどこですか』
ラリー・ローズ・DHC 著

長年勤めた会社をやめ、一息いれようとした矢先の突然の記憶障害、ゆっくり、じわじわと広がっていく心の暗闇。人生で大切なものがすべてこの手からすべり落ちていく。五十四歳でアルツハイマー病と診断されたから、残された能力を奮い立たせて、自己の内面をつづった小説風手記。

◆ハプスブルク一千年(中丸明) ◆幽斎玄旨(佐藤雅美) ◆揺れる夏追憶の橋(鎌田敏夫) ◆死者の体温(大石圭) ◆炎の裁き(フィリップ・マーゴリン) ◆逆説の日本史6(井沢元彦) ◆環境ホルモンとは何かI(綿貫礼子ほか) ◆東北の街道(無明舎出版編) ◆シングル単位の恋愛・家族論(伊田広行) ◆寡黙な死骸みだらな串い(小川洋子) ◆ポチャポチャの女(永倉万治) ◆雨はあした晴れるだろう(三浦綾子) ◆ふりむけば父の愛(河添恵子編) ◆必要のない人(内館牧子) ◆カブキの日(小林恭二) ◆すっぱい魂カッパ巻(室井滋) ◆雑誌の死に方(浜崎廣) ◆35歳は強気ときどき弱気(宮子あずさ) ◆知的財産権がわかる事典(生田・名越法律事務所) ◆嫌われものほど美しい(ナタリー・アンジェ) ◆父生術(藤原和博) ◆ヒトラーの秘密銀行(アダム・レポー) ◆4つの甘みでつくるお菓子(福田里香) ◆魂の絆(トマス・ケリー) ◆男が語る離婚(中国新聞文化部編) ほか

◆児童書 ◆じいちゃん、いつまでも家族だよ(高山栄子) ◆バーバパパのアプリカいき(アネット・チゾンほか) ◆ズッコケ脅威の大震災(那須正幹) ◆かっことびマメノスケがゆく(山中恒) ◆ガラスの花かこ(やなぎやけいこ) ◆育てるふれあう飼い方図鑑全8巻(ポプラ社発行) ほか

◆10月のテーマ関連図書コーナー ◆10月の親子読みかかせ会 ◆2日(毎月第1金曜日) 14時30分から ◆10月の中央図書館の休館日 ◆10日、18日、22日